What´s 中央会 ― 中央会なんでも相談室 ―

このコーナーでは、中央会にまつわる疑問質問にベテラン相談員が懇切丁寧にお答えするよろず相談室です。公序良俗に反するもの以外であればなんでもOKです。但し次号以降もこのコーナーがあればの話ですが…。

雄飛とハンサムについて

Q：中央会の機関誌には毎月郵送されてくるハンサムと年度始めの8月に送られてくる雄飛がありますが、どうして機関紙に二つの名前があるのでしょう。

A：そうですね。確かにハンサムと雄飛二つあるのは不思議ですね。それに雄飛は必ず年度始めの発行になっていますね。
元々、中央会には毎月定期的に発行される機関誌はありませんでした。唯一あったのが、各年度始めに発行される雄飛でした。題字の揮毫は西尾前鳥取県知事だったようですが、この雄飛がいつから発行されるようになったかについては、誰もわからないみたいです。
また、これに対しハンサムは和田秋男第12代会長就任にあわせ「170名を越える大所帯で年に一度の情報提供では会員サービスは十分とはいえない。毎月発行の機関誌を。」という要請から、当時総務委員会のメンバー5名と事務局の足立さんの計6名により創刊しました。ハンサムのネーミングも初代編集長のＨ氏が無い知恵を絞りに絞って編集委員全員の頭文字をつかって「HANSUM」と名付けたのですが、あちこちから英語のスペルと違うとの指摘で翌年には「ハンサム」そして平成2年より「Handsome」となり現在に至っているわけです。
創刊当時は、前述の通り総務委員会が担当していたため現在の総務と広報両委員会を受け持っていたような状態でしたので、委員会活動は月10日位していたように記憶しています。答えになりましたでしょうか？

（野島　功）

言わしてごしない episode 1

元来ひねくれ者の私は、目標とする会員の方はいません。ただ、その行動を注目している方が幾人か存在します。

その一人が今回ご卒会されました。彼の気配りと物事の進め方、会員との調和の仕方は私にとって驚くべきもので、とても真似できるものではありませんでした。

彼は会員に対して、「物事は与えられるものではなく、自分から探し出すものだ」との言葉を残されましたが、その言葉を自分なりに解釈してみました。

よく言われるところの「新入会員はとにかく出席しろ！」で、出席率ばかり稼いだってあまり意味はなく、「出席して何かを与え、何かを得る」ことがなければ駄目なのだ。極論を言えば、年1回の出席でそれがたくさんできる方（印象に残る存在感のある方）は、それはそれで価値があるし、年間を通じそれが毎回できれば、これはもう数年間で卒会に値する収穫を得ることができるし、会員にも与えることができるのではないか…（究極ですが）。

また、中央会活動は各会員の考え方を尊重しなければならないと思いますが、「物事は与えられるものではなく、自分から探し出すものだ」というような意識の高い活動ができない方は、せめて、出欠の葉書の返信や、欠席した場合の連絡・後日の内容の確認など、最低限のマナーは守るべきではないでしょうか。

もの凄い方がゴロゴロいらっしゃるのも中央会なのですが、「物事の基本ができていない方が、どうして社員や部下に対しての指導ができるのか」と不思議に思う方もまたいらっしゃる。

私にとっての中央会は、存在感はあるがまだまだ不可思議な世界なのです。

（植田寿雄）

訃報

去る平成14年7月6日、本会第17期ご卒会（第15代会長）岩坂和男ＯＢが亡くなられました。

ここに深く哀悼の意を示すとともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新入会員紹介

Ｈ14年7月新入会員として、鶴田文彦氏が承認されました。

〈コメント〉
この度7月に入会させていただきました鶴田文彦です。皆生に在ります“ホールサムインかいけ”に勤務しております。
中央会の活動をとおして、様々な事を体験・経験し、又、多くの方との出会いにより、たくさんの事を勉強させていただければと考えております。
皆様、ご指導の程どうかよろしくお願い致します。

※詳しくは新年度会員名簿38ページをごらん下さい。

8月例会案内

と　き　平成14年8月19日（月）　18：30～
ところ　米子国際ホテル
講　師　大山寺僧侶　大館　宏雄氏
演　題　「大山寺ウラ話」

8月役員会報告

8月定例役員会が平成14年8月1日（木）、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 8、9月例会開催の件
(2) ジュニアトライアスロンボランティアの件
(3) その他
※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

きさらぎ小原のゲゲゲ通信

日韓共同開催のワールドカップも、チケット問題等多少のトラブルはあったものの、大成功の内に幕を閉じた。
大会前は、さほど盛り上がらないように思えたが、いざフタを開けてみれば連日連夜の大盛況。大会会場はもちろんテレビの前からも大声援・大きなため息が聞かれたことだろう。
私自身も大のサッカーファンと言う訳ではないが、大会中はサッカー一色の日々が続いて「少々寝不足気味」である。
驚いたのは、何処からか湧き出したかのような熱狂的なサポーターの数である。ただ、にわかサポーターを否定するつもりは全くないのだ。そのにわかサポーターのおかげと言っていいのかは、分からないが、日本代表のベスト16・韓国代表ベスト4進出の後押しになったのは間違いないだろう。4年後のドイツ大会で日本代表の更なる活躍を期待したいものだ。
嵐のような一ヶ月間が終わり、優勝国は優勝最多5回目のブラジルに決まり大会の幕を閉じた。

勝負 ―自己との戦い、要は人なり―

「想いを形に」

雄飛

第28号　2002. 8.

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会　会　長　門脇浩二　編集責任者　夏野慎介　印刷所　東京印刷㈱

ごあいさつ

鳥取県西部中小企業青年中央会
会長　門脇浩二

第28期会長を務めさせて頂く、門脇浩二でございます。私は知識も器量もありません。しかし、情熱とバイタリティーはあると思います。私なりに一年間、会員の皆様の御協力のもと全力で会長職を遂行する決意でございます。どうぞよろしくお願い致します。

政府は、本年5月の経済月例報告で景気底入れ宣言を発しました。しかしながら、それとは裏腹に、依然として雇用情勢は厳しく、企業倒産も高水準に推移するなど、先行き不透明感を深めています。特に中小企業においては、景気悪化の度合いが強く、景況は一段と厳しさを増しているのが実情であります。そのような中、28年目を迎える鳥取県西部中小企業青年中央会は、諸先輩方の会に対する愛情と努力により全国にその名を轟かす青年経済団体として確固たる地位を築いてきました。ここに敬意を表すとともに、我々もその輝かしい歴史に仲間入りをすべく、会員個々が例会及び委員会活動を通じて自己の研鑽に努め、英知を養いたいと考えます。

昨年度岩田直前会長のスローガン、新世紀・原点への回帰、当会の重い伝統と歴史を今一度原点に帰り、活動されまして、個性ある立派な経済人に育て上げられました。私は西部青年中央会の心、温故知新を引き継ぎ更にもう一歩踏み込んでみたいと思います。

さて、本年度のスローガン「勝負」でございます。企業人の代表として中央会におられるわけでございますから、一年間かけて経済人として勝負してほしいです。企業は負けてしまえば何もありませんが、経営観、人生観、人間観を発展させて、新しい経営意欲を自ら引き出すことができれば、中小企業でも勝負に勝てるはずです。そして、テーマ「想いを形に」です。共創の知を私は一年間かけて実践したいと思います。

中央会活動を通して、会員諸君が個々の想いを形にできれば喜ばしく思います。

私は今年で28年を迎える鳥取県西部中小企業青年中央会の重い歴史に一つでも想いを形にしたいと思います。

親愛なる会員の皆様、ＯＢの皆様今年一年間、微力ではありますが、会長として頑張りたいと思います。どうかよろしくお願いします。

広報紙「ハンサム」編集方針について

広報委員長　小原伸夫

今年度、門脇会長のスローガン「勝負－自己との戦い、要は人なり」を前面に出した「ハンサム」を発行するためには、どうしたら良いか一つの方向性を見出し、メンバー全員で協力し全員参加を目標に楽しく活動し、親睦を深めて行きたいと考えております。

年間テーマ　**「What's 中央会」**

中央会人として、中央会の歴史・中央会の仕組みなどもっと知るべきだと考えました。

前年・前々年度はnewカマーズ委員会があり、新入会員の教育が行われてきました。それより以前は年間数回の新入会員オリエンテーションが開催されていました。しかしまだまだ分からない事も多いと思います。一年間を通して、今一度中央会を再認識し、会員同士の中央会活動の向上につなげて行きたいと考えています。

最後になりましたが、会員の皆様、ＯＢの皆様の参加があってこその広報紙「ハンサム」と考えております。

色々とお願いすることが多いと思いますが、快く引き受けていただきます様、お願い致します。

新年度副会長・委員長抱負

副会長　中津尾　直己

このたび副会長を務めさせていただく中津尾直己です。よろしくお願いいたします。
担当させていただく委員会は、きずな委員会（松本英樹委員長）、情報メディア委員会（畠山広幸委員長）です。この二つの委員会は何か「アナログとデジタル」という相反するような内容にも受け取ることができます。人として大切にしなければならない「絆」、そして現代社会で必要不可欠になりつつある「ＩＴ」。それぞれの委員会活動の中で議論すべき課題はたくさんあります。優秀なお二人の委員長、委員会の皆様とともにこの1年間がどのような展開になるか。「勝負」の時代にいかに「想いを形に」していくか。両委員会の導き出す結果が楽しみです。
私も入会して17年目となり、育てていただいた先輩諸氏へのご恩返しをしなければいけない歳になりました。そのご恩を会の発展という形でお返し出来るよう、この1年、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

きずな委員会　松本英樹

今年度、きずな委員会委員長を拝命いたしました境港魚市場の松本英樹です。
皆様ご存じのように、この委員会は継続委員会です。前年度の湯原委員長が大変優秀な活動をされましたので、私としては大変なプレッシャーを感じています。凡人の私なりに、中津尾副会長のもと、山根副委員長と共に、各委員会ときずなを強く結び一年間精一杯頑張ります。
会員の皆様、ご協力を宜しくお願いいたします。

情報メディア委員会　畠山広幸

「情報」は私たちの生活の中で目には見えないけれども大きな価値をもつものです。情報はメディアを通じて伝達されます。メディアを知り、「情報」を上手に使えるようになれば、ヒト・モノ・カネそれぞれの付加価値をより高めることになると考えています。
昨年は、情報の広義な意味付けと道具としてのＩＴ習熟に力点を置きました。私自身2年目となる今年度はもう少し視野を広げて、行政との関わりも持ちたいと思います。現在進められている鳥取県情報ハイウェイは私たちの生活基盤となるべきものですが、その進展について県西部の青年経済団体として、多少なりとも関わりたいと考えています。また、そういったＩＴインフラを十分使いこなす基本的なＩＴスキルを身に付けるために、手のひらのＩＴツール携帯電話の研究や、会のホームページ運営、パソコン実習も継続していきます。委員会内にとどまらず、会全体に資する活動を目指して１年間頑張ります。よろしくお願いします。

副会長　小椋博之

第28期門脇会長の下、政治行政委員会担当副会長の大役を仰せつかりました小椋です。
本年度は「勝負！ー自己との戦い、要は人なり」をスローガンとし、「想いを形に」をテーマとしての今年度の運営をされますが、私も含めて各会員の皆様の企業にとっても今年度が本当に正念場の年になる様な気がしています。
その中で、やはり社会生活を営む上で特に外で仕事が主体の男としては、人で構成されている世の中だという事は決して忘れてはならず、自分の周りをもう一度よく見渡して周知する事からはじめ、より良い人間関係を自分流に築き上げていく事で、この激動の世を渡っていける自分が形成されるのではないかと思えます。
最近特に、お年寄りがよく話されていた「生きてさえいれば必ず良いことが有る」と言い聞かせる自分がよく居るようになったと思います。これは必然的にチャンスを掴み勝負に勝つという結果に成り得る事だと思い、諦めては決して良い人生は送れないといつも思う自分がここに有ります。
その為にも、せっかく縁あって皆さんと一緒にスクラム組んで会の運営をしていくのですから、私が出来る範囲の事は微力ながらさせて頂きますので、今年一年、皆さんご協力・ご指導のほど宜しくお願いいたします。

政治行政委員会　土井裕次

委員会では、合併に伴い出てくるメリット並びにデメリットについて考えます。
自治体に関するメリット並びデメリットに関しては、以前から委員会で勉強してきました。今年度では合併した地域で生活する住民をキーワードにし考えていきます。
広域合併した場合、今の町村役場は出張所ぐらいになり、職員も削減されます、その為今までよりどの程度行政サービス等が変わるかを検討し勉強していきます。
小規模で合併した場合は、どうしても近隣の市町村での合併になると思います。そうすると、今ある施設をどの様に有効利用すれば、広域合併した時とどの程度の違いがあるかを検討し、勉強していきます。
最後になりましたが、合併で一番肝心なのは、自治体の財政事情もありますが、やはり住民へのデメリットいかに少なくするかだと思います。委員会では、住民の視点から見た合併問題を検討し、勉強していきます。

副会長　山本良文

門脇会長とは中央会入会以前からの知り合いであり、お互いの気心も知れた仲で、親近感も強く、この度の人事である副会長拝命となりました。
それにしましても、大変厳しく辛いこの経済情勢の中、時代も会社も人をも淘汰されようとする今、なぜ、副会長という重責を受けてしまったのか、改めて自分の単純さと人の良さに驚きを感じています。拝命しましたからには二回目の副会長

総務委員会　水　康徳

今日、依然として地元経済は低迷を続けている中、当会会員は自ら所属する企業の代表として、鳥取県の中小企業の振興発展を目的とする当中央会に参加されています。事業内容を厳しく評価することが求められる中、企業が払う会費と、会員の時間は非常に貴重なものです。当会はその活動に参加する会員にとって有益な場でなければならないと考えます。

皆生大会

小椋崇永

今回、初めてボランティアということで、皆生トライアスロンに参加させて頂きましたが、正直言いますと、全くといっていいほど無関心で、一回も関係したことなくいつも第三者でした。この度ボランティアで参加させて頂く事になり、一体どんな事をするのか興味が出てきました。しかし、ボランティア打ち合わせかと不安になりました。でも大会が近づくにつれて他のボランティアの皆さんが一生懸命されているのを見て、「自分に出来ることをしなくては…」と自分から行動しようと思うようになりました。そして大会当日、自分は全然たいしたことはできませんでしたが、初めて観るアスリート達に感動致し、今、自分が忘れかけていた「思いやり」の言葉を思い出し、凄くいい経験をさせて頂きました。みなさん本当に、ありがとうございました。

北口智明

ボランティア参加の皆様お疲れ様でした。
正直なところ毎年開催されるトライアスロンに対してあまり興味もなく、むしろ冷めた目で自分には無縁のものと考えていました。しかし今回このような形で自分が参加することになり、次第に自分自身考え方も変わっていきました。
私は運び隊として、正直なところ北高の生徒の送迎だけしておけば一日が無事に終える事が出来るだろう…？と安易な考えでいましたが、与えられた役割は勿論の事、一人一人が助け合い、まさしくボランティア精神でやり遂げられたように思います。
一度選手での参加経験もあり、毎年ボランティアに参加している友人が、大会が終わったあと、「選手で参加した方が楽だ…。」と話していました。何気なしに言ったその言葉であの過酷なレースよりボランティアがいかにこの大会で重要な役割を果たしているか、その中の一人として参加できたことに今では、自分なりに満足することができました。

山本竜男

当初、青年中央会に入会して、これだけはやりたくなかったのがトライアスロンのボランティア活動だった。
これを読まれた諸先輩方にはお叱りを受けるかもしれないが、生まれてこの方スポーツを見て感動したことがない自分にとって、この活動は無意味なものでしかないという思いがあったからである。
だが個人的にトライアスロンをただのスポーツとしてみている訳ではない。「鉄人」という言葉は彼らアスリート達の為にあるのだろうという事を改めて実感した大会だった気がする。
ただ、今、充実感そして達成感というものは気持ちの中で確かに存在している。「来年も参加しますか？」と聞かれれば、「はい、喜んで参加します！」と答えられるかもしれない……？？
最後にすべての大会関係者そしてアスリート達に「お疲れ様でした！」という言葉を送りたいと思います。

トライアスロンボランティアを体験して

岩西　隆

今回、初めてボランティアに参加して、いろいろな方が沢山参加されている事に驚きました。今までトライアスロンは、自分に関係無い、興味が無い、見た事が無いと、まったく無関心でした。ましてボランティアなんて…。
でも今回ボランティアに参加して、裏方さんの大切さを再認識させられたように思います。
自分自身も、知らないうちに表の見える部分ばかりに、目が向いていたと思います。それを、今回ボランティアに参加して思いました。これからは、今まで以上に裏の見えない部分に目を向けていけそうです。

桐田　照生

私は、今回、中央会を通して初めてトライアスロン・ボランティアにマラソン部の一員として参加させて頂きました。最初は何事も初めてで不安でしたが、諸先輩方のご指導で、担当競技に支障なく大会を終えることができました。
大会を終えて、ボランティアを通じていろいろな方々と触れ合うことができ、またその方々のご努力やご苦労を実感し、これからは今までとは違った目でトライアスロンを見ることができると思います。
来年も機会があれば是非、お手伝いしたく思っております。

井塚　聡

私にとっての第22回皆生トライアスロンは、競技そしてボランティア活動共に初体験の連続でした。そのような状況下では全体像も見えず、諸先輩の後をついて動くだけで時間が過ぎていく感じでした。大会が無事終了して思うことは、各会員の方の献身的な活動と成功させるという強い意志でした、そこからはボランティアという響きから想像していた甘さは無く、企業人・社会人としてのプライドにも似た力強さを感じました。

第22回全日本トライアスロン

僕にとってトライアスロンは小さいころからの夢でした。でもかなづちを克服することから始めなければならない本当にゼロからのスタートでした。マラソンも走れるようになった頃ボランティアの話がありました。トライアスロンに携わり選手を応援するうちに、自分の中の憧れを夢で終わらせたくないと強く思うようになりました。たった1日の為にどれだけの時を費やしたでしょう、ようやくアスリートになる夢に手が届くところまで来ました。しかし皆生大会はたやすく完走出来るものではありませんでした。緊張、興奮、プレッシャーの中スタート。苦手だったスイムが意外と楽に上がれたのですが、バイクに入り暑さとの戦いでは意識が薄れそうな時何度もボランティアの人達の声援に助けられたことでしょう。ランに入った時には、足は上がらず痛みもありリタイアの文字が頭をよぎりました。でもエイドや、折り返しでみんなが待ってくれているので頑張ろうと思い走り出しました、ボランティアの人達の力って凄いんです。ダメだと思っても沿道の声援、エイドでの労いでまた走れるようになるんですから。ゴールでは沢山の人が僕を迎えてくれました。その時、今まで練習した事がムダじゃなかったんだと過去を振り返り涙が出ました。応援してくださった方々本当にありがとうございました。

拝藤　博幸

今年の皆生トライアスロンを振り返って見ると、結果こそ去年より下回りますが、自分自身では大変満足のいくものでした。途中、太ももの けいれん、膝の激痛、灼熱の太陽と苦しいとしか言いようのない事ばかりでした。去年と比べても格段に今年の方が苦しいレースでした。ですが、去年の様に止めたいと思ったことは一度も有りませんでした。むしろ、ランの折り返しで「もう終わりか…」とちょっと寂しい気分になったくらいでした。苦しければ苦しいほど、ボランティアの方々の声援が身に染み、力になり、選手とボランティアの一体感みたいなものを改めて感じました。家族、友人、中央会の方々、運営スタッフの方々、全ての方々に支えられ選手として参加出来た事、また僕自身それを感謝し、楽しむことが出来たことに大変満足しています。改めて皆生トライアスロンのすばらしさ、醍醐味みたいなものを感じることが出来ました。これからも「楽しいレース」をモットーに、頑張っていきます。皆様、本当に有難うございました。

宮崎　大介

トライアスロンを終えて

今年も暑い日の大会がやってきました。やはり皆生トライアスロンは暑い方が似合います。今年もスタート前に中央会の皆様の暖かいエールに送られ、皆生の海に入って行きました。スイムは予想より早めにゴールでき、気持ち良くバイクに移っていけました。

エイドではゆっくりとボランティアの方々と触れ合い本当に楽しくコースを走っておりました。しかし、残り10キロを切った辺りですごく苦しく自分自身と戦っていた時に沿道で声援を送ってくれていた女子校生に「がんばってください！気ですっ！」と気合を入れてもらい一瞬我に返る事ができました。

余程なさけない表情でバイクに乗っていたのでしょうか。そんな風に彼女たちに写ったと思ったら暑い中、我々の道楽の為に沿道で休まずに声援を送り続けてくれている人達に大変申し訳なく反省すると同時にとても元気付けられました。お陰でバイクも去年より1時間早くゴールできマラソンへと移りました。

ランも20キロ辺りまでは自分のペースで走れていましたが、人生厳しいですね！今年も待ち受けていました。ゴールまでの長い苦しみが……足の裏の骨が着地の都度痛みを感じるようになり、走っては歩きの繰り返しになりました。途中中央会の皆様の暖かい声援を受け、エイドでは力水をいただき何とか今年も制限時間内でゴールする事ができました。ゴールでは更に新旧の会長初め沢山の会員の方々より祝福をいただきほんとうにありがとうございました。

普段めったに一緒にいない家族もこの日ばかりは、私が皆様にこんなにも祝福される姿を見て感動しておりました。

今年で17回目の感動のゴールをさせていただきました中央会の方々と陰で大会を支えていただいた方々に感謝いたします。

ほんとうにありがとうございました！

白鳥の乗った青年
和田　健二

第22回皆生大会に出場して

今回も会員のみなさまの温かい（恐い？）応援、励ましによって完走できました。心より御礼を申し上げます。

三、四年前から体、仕事、家庭の事で、一年通じて練習ができない事が多く、苦しい大会が続いています。今年はどうしようかと迷いましたがいつのまにか申込んでいました。

スイム・バイクコースが今年一部変更になっているのが、気掛かりでしたが、その事が的中して、スイムのタイムが前年より23分ほどかかりバイクでのタイムリミットの余裕がなくなりあせりました。

バイクコース前半、体調が上がらず、福市地下道での中村ＯＢ夫婦の激励、大山道路登りでの小原工さんの応援も夢の中で聞いているような感じがして岸本Ａ.Ｓに到着しました。イスに座り、リタイヤしたほうが、スタッフに迷惑がかからないかと弱気がでてきましたが、激励会での中島・萬田両君の顔・声が頭の中を横切り、行ける所まで行って考えようと思い直し又走り始めました。それから体調も回復しタイムリミットに間に合いました。

ランでは最初は無理せず行こうと思い折り返しＡ.Ｓで会員の皆様の顔を見たら元気が出て帰りは走る気が起こりゴール近くではあの信号を過ぎればビールが飲めると思い、何とかゴールテープを切ることができました。

これで8回連続出場し、完走させていただきました。今、筋肉痛、虚脱感をもって原稿を書いています。もしかして来年も出場していたら、応援のほうよろしくお願いします。

松岡　正高ＯＢ

ですので、少しは肩の力を抜いてリラックスしながら融和をもって、一年間中央会活動を歩みたいと考えております。門脇会長のサポートをしっかりと行う副会長であり、今年度のスローガン「勝負！～自己との戦い、要は人なり～」が、会員一同に浸透します様に、綱領の「英知・友愛・団結」がやさしく楽しく厳しく実践出来ます様に、担当の総務委員長をフォローしながら精一杯助力していきます。

会員の皆様はもとより先輩諸兄のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

総務委員会は年間を通じてどの委員会よりも多くのさまざまな事業を行なう委員会です。ひとつの事業を行なうためには、さまざまな条件や問題を解決していく事が必要です。これは、実際の企業における事業活動での企画立案、計画策定、事業実施及び反省というプロセスと共通していると思います。

今年度の総務委員会は当会が開催するさまざまな事業を通じ、各自がその時々に担った任務の遂行により、事業を実施する際に必要となる資質を自己研鑽して頂ける委員会にしていきます。

副会長　釜田公文

平成14年度副会長に任命されました釜田公文です。

この度、国際交流委員会とモラル委員会の担当をさせて頂く事になりました。副会長職は委員会の円滑な運営の手助け役と考え、各委員長の思いを三役に伝え、スムーズな中央会活動が出来ればと考えております。今年のテーマである「勝負」とは勝ち負けですが、勝負に勝つには色々な武器を身につけることが必要です。それが情報であったり優秀な部下であったりする訳で、それを使いこなせてこそ勝ち戦があるように思います。この1年は本当の意味で勝負の年になるように思います。中央会での勉強が皆さん自身また所属企業の実になるような1年にしたいと思います。中央会のメンバーがみな「勝者達」と胸を張れるようがんばって行きましょう。

国際交流委員会　中本高夫

2002年度　西部青年中央会国際交流委員会委員長をさせていただくことになり、身の引き締まる思いでございます。

新設委員会に対する門脇会長の思いを私なりに感じ取り、国際交流委員会の役割が西部青年中央会が創立以来求め続ける英知・友愛・団結を築き上げる一助になることを願っております。また、西部青年中央会の20余年になる歴史（過去）をしっかりと受け止め、将来（未来）の国際交流事業を模索しながら、今年度（現在）与えられた仕事に邁進していく所存でございます。根底となるテーマは、「過去と未来を荷負い現在行動する」換言すると、過去先輩が展開してこられた西部青年中央会の事業を私自身の事業と考え、将来進むべき姿を模索し、今この時代を地に足をつけ進んでいく。そして、以上のことを基礎にし、1年間委員会メンバーと共に明るく事業を行っていく所存でございます。何卒1年間宜しくお願い申し上げます。

モラル委員会　後藤秀之

皆さん今日はこのたびモラル委員会長を受けました後藤秀之です。宜しくお願いします。

最近世間では、モラルが低下したとか、又は、なくなったなどとよく聞きます。

昨年は潮さんが、いろいろな切り口で成されましたが、私は「人間のなり立ち」という面から考えて、前半は、「学校」をテーマに教育の場から、後半は、「一般」と言うものの中から、市内の著名な方や、ＯＢ方々を講師先生に招いて、人間の「考え方」「道徳」又は、「思い」といったものが、どの様に変化してきたかを追及し、それによって私たちが親として今なにを子供にしてやらなければならないのか、又対応していかなければならないかを、一年間勉強していきたいと思います。

そして、「人は要」というサブテーマの中でも、企業人、ひいては中央会メンバーとしてどのようにたち振舞わなければならないかということに対しても勉強して行きたいと思います。

私も中央会最後の一年となり、この一年間を悔いを残さない様、「勝負」の年と思いガンバリます、宜しくお願い致します。

副会長　夏野慎介

今年度副会長を務めさせて頂きます夏野です。門脇会長のテーマ「勝負」を基本理念に経営委員会と広報委員会を担当致します。

経済人として商売そのものが勝負の場であり、避けては通れないテーマではないのでしょうか。経営委員会をビジネスの実践とマネジメントの両面からの勉強の場と位置付ければ、広報委員会は中央会の活動・理念を会内外に発信する機関だと考えます。河端、小原両委員長と共に1年間頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

広報委員会　小原伸夫

今年度門脇会長のもと広報委員長を勤めさせて頂きます小原です。1年間宜しくお願い致します。

中央会活動最後の年に門脇次年度会長より委員長という大役を任命され、大きなプレッシャーで身の引き締まる想いで一杯です。

広報委員会は、雄飛・ハンサムの編集・発行。中央会を対外的にＰＲを主に活動してまいります。

次年度スローガン「勝負」（自己との戦い。要は人なり）を前面に表現した紙面構成で各委員会の活動、中央会の情報を分かり易く、正確に伝えていきたいと思っております。

とても頼りない委員長ではありますが、担当副会長・副委員長・広報委員会メンバーの協力を頂き、全員参加を目標に楽しめる中央会・楽しめる委員会になるように努力してまいります。

経営委員会　河端明彦

本年度、経営委員会の委員長を仰せつかった河端明彦です。今年の経営委員会は、「楽しい委員会」そして「出席したい委員会」が第一目標と思っています。委員会の内容はさして代わり映えがないかもしれませんが、商売の基本である「売る」という事をテーマに実践的ビジネス面とフォロー的マネージメントの両面から迫って見たいと思っています。今時の経営者は、情報過多のこの時代、あたかも机上の理論が全てかの如くもてはやされ、右往左往させられているように思います。一般的に「会社とは・・・」と考える時、まず「売る」ということでしょう。いくら節税の仕方を知っていても、売り上げがなければ意味がありません。必要なのは……？この辺りをこの1年をかけて探って行きたいと思っています。この当たり前のことを再度認識する事が本年度の門脇会長のテーマである「勝負」に繋がってくると信じ、私の抱負とさせて頂きます。

西部青年中央会 第28回通常総会 開催される

岩田内閣締めくくりの第28回通常総会が7月15日（月）午後6時30分よりサンルート米子で開催された。

冒頭、岩田会長より「一年前『最愛の会員』とみなさんを呼びましたが、みなさんの協力ですばらしい一年を終えることが出来心から感謝しています。」との会長として最後のメッセージが会員に贈られた。

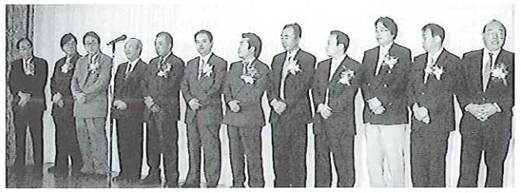
総会では、岡本副会長が議長に選出され平成13年度事業報告及び収支決算報告、平成14年度事業計画及び収支予算案について満場一致で承認された。

卒業証書授与式では、15名の卒会者を代表して近岡会員と中澤会員が「中央会では仕事以外の多くの友人を得て様々なことを体験させてもらった。」「中央会での経験を今後の人生で生かしていきたい。」とそれぞれ感慨を述べられた。壇上にあがった13名（2名は欠席）の卒会者は一様に晴れ晴れしい表情で卒業証書を受け取られた。

また、年度に顕著な活動を行った委員会に授与される最優秀委員会には、初の女性委員長で会員をリードしてきた広報委員会が選ばれた。桶村委員長の強力なリーダーシップと委員長を支えたメンバーのチームワークに対するすばらしい顕彰となった。授与後の桶村委員長の流した涙が一年間の苦労と支えてくれたメンバーに対する謝恩を如実に表現していた。本当に美しいセレモニーであった。

各種顕彰、表彰委員会は以下の通り

特別功労賞　堀田　牧　（25期会長）
　　奥森　隆夫　（26期県会長）
最優秀委員会　広報委員会
優秀委員会　きずな委員会



総会後、同じフロアーの別会場に移動して来賓・ＯＢを交えての懇親会が開催された。開会に先立ち、7月6日未明逝去された故岩坂和男第15代会長の冥福を祈り黙祷を捧げた。厳粛な雰囲気のうちに開会された懇親会では、門脇浩二第28期会長が、今年のスローガンである「勝負ー自己との戦い、要は人なり」を披露し今年度に向けての決意を新たにした。当初、中央会に大きな足跡を残し、総会直前に逝去された故岩坂元会長への配慮から式典を押さえたものにという意見も出たようだが、通常の雰囲気の中で開催する事となった。

多くの来賓・ＯＢ・現役会員が見守る中、恒例の全日本トライアスロン皆生大会に参加する選手の壮行会が行われ、現役2名、OB2名の選手が決意を披露した（約1名はとてもトライアスリートには思えなかったが…）。これに対し中島太郎応援団長からウィットの効いた辛辣な中に温かみのあるエールが贈られ場内爆笑の渦に包まれ、選手、会員ともに皆生大会に向けて気持ちを一つにした。

中央会がトライアスロン皆生大会に深く関わるベースを築いた一人である故岩坂元会長の逝去後、いろいろな思いの中で開催された式典であったが、追悼と新たなる出発の両面がバランスよくとれたすばらしい式典であった。

（野嶋　功）

故 岩坂和男氏を偲んでのＯＢの談話

松田一三ＯＢ

河島英伍の酒と泪と男と女の詩みたいに味のある、男っぽい男を演じ、貫き通し、短い人生を終えた。茫然とはこんな様を言うのか。「生きてゆくということは、誰かに借りを作ること、そして生きてゆくことは、その借りを返してゆくこと」君への恩返しを、君から貰った万分の一でも果たしたい。

木山三郎ＯＢ

6月に岩坂君から私の家で飲もうかと、電話があり我が家でいっぱいやった。彼とは20年以上の付き合いだったのだが、我が家で飲んだのは初めてだった。今思うとあれが別れの挨拶だったのだろうか…。年は私の方が上だったが、彼から多くの事を学ばせてもらった。この話をするのはつらい。

中村昌哲ＯＢ

（いつも通りの懇親会の雰囲気に）気のあった仲間を呼んでみんなでカバチをたれるのが好きな奴だったからこれでいい。喜んでいると思うよ。

平成14年度県総会

平成14年7月31日（水）「ニューオータニ鳥取」において、第28回通常総会が開催された。

総会は、古南県会長の1年を総括する挨拶で始まり、その後、議案審議が行われ、大津新県会長をはじめとする新役員（西部からは門脇副会長の他、理事3名、監事1名が選出）、平成13年度収支決算書ならびに平成14年度の収支予算書が満場一致で承認された。

通常総会終了後、株式会社オージーエムコンサルティング代表取締役社長　榊芳生先生による「経営者としての人間性」と題した記念講演がおこなわれた。榊先生は飲食業界を中心にコンサルタントをなさっているが、「経営者は夢が必要だが、夢を実現にするためには社員の力が不可欠であり、社員に対しては努力の正しい評価と情が大切である。」とのお話は、中央会会員すべてにとっても大切なことであると感じた。

その後、多彩な来賓の方をお招きし、懇親会が行なわれた。恒例の「県会長の鍵」が古南直前県会長から大津県会長へと引き継がれ、その後の東部・中部の会員との交流は大いに盛り上がり、なごやかな雰囲気の中、県総会は無事終了した。

（植田寿雄）

第22回　皆生トライアスロン
―トライアスロンを終えて―

ボランティア部長　小林慎一

中央会団体ボランティアのみなさん、マラソン部のみなさん　お疲れさまでした。

感動して頂けましたでしょうか。本当は各場所に出向き実行委員会とともに、他団体の方々にもお礼を申し上げないといけない立場に有りながら責任上本部から動けずお許しください。公の場で個人的な感想はどうかと思いますが、参加する意義を伝えるのには近道だと思い述べさせてください。私の話は長いと散々言われましたが、新聞・テレビ、各団体・一般・学生（北高・松蔭）の説明会には私の能力の200%で望みました。

自分自身感心しているのですが、中央会・トライアスロンを越えた何かがそこに存在しました。如何に楽をしようかと考えたら「何か」が見えなくなります。

全力投球でこそ、選手に負けない充実感が得られました。仕事なら500パーセントにしてやろうと余計気合いが入ります。

ボラ部員一同感想は色々でしょうが、良くやってくれました。

多分、なかなか出席出来なかった部員は遠慮があったと思いますが、出席した時は頑張っていたことを私が保証します。実に面白い連中で、この数ヶ月で義兄弟になった気分です。終了後、胴上げして貰い、ビールを頭からかけて貰いました。中央会人生の中で私の一番の思い出に成ることは言うまでもありません。

この気持ちは先輩が後輩に伝えるべき大切なことですね。当日、萬田ＯＢと市位監事が娘さんをボランティアさせたいと本部につれてこられました。「ほのぼのとして、親が良い物を見せたい、伝えたいと願う姿が眩しかった。」

この出来事のために、「俺はしたんだ!!」と吠えても許していただけますよね。

ボラ部員一同に感謝の気持ちを伝えて終わりたいのですが、岡本26.5Pさんと、畠山ファンクラブくんの名前だけは挙げさせていただき、ボラ部長を終わらせて頂きます。

「みんな　本当に有り難うございました。」心底思います。

ボランティア部長　蝉の抜け殻　こばやししんいち

マラソン部長　小椋博之

この大会のマラソン部の部長という大役を仰せつかり、過去8年の間味わった事の無い感動を味あわせてくれたマラソン部の部員にまずは感謝し、お礼を申し上げます。

そして、ボランティア部の小林部長を始め、ボランティア部のメンバーの方々色々とお世話になりました。

又、実行委員会の土井実行委員長を始め、前田団体ボランティア部長を筆頭にご協力を頂いた中央会の会員の皆様大変お疲れ様でした。

おかげさまで、マラソンコースでのトラブルは無くスムーズな運営が出来ました事をお礼申し上げます。

今回のマラソン部のテーマは、全部員がボランティア精神にのっとり、アスリートと一緒に、共に泣き・喜び・感動できることが主題テーマでした。

幾分か2月頃から準備にかかり、前日の最終準備を経て、前夜祭では久古ＯＢのご協力を得て十分に前日作業の疲れを癒し、当日を迎えた朝はスキッとした部員の顔が見れるはずが、全員ウナギのような目をして5時に集合してきた姿は伝統的なマラソン部の姿だったように思われたのは、私だけなんでしょうか。

その状態にもかかわらず、当日の運営においては、何事も無かったかのような姿で挑んでいた部員は奥深い秘めたパワーを見せ付けるがごとく一生懸命約19時間の長丁場を見事にこなして見せました。

当会の綱領とおり、英知（マニュアル作成）・友愛（一人一人の責任のもと準備し、協調をはかり）・団結（当日の炎天下の中、愚痴一つ言わず皆で助け合いながら）を見事に成し遂げたその姿を見てて、中央会の会員のものすごさを改めて感じた一瞬でもありました。

来年は、増井マラソン部長にバトンタッチしますが、今年度以上に相互協力を惜しまずに頑張りましょう。

本当にみんなご苦労さんでした、そして、ありがとう。

中央会　団体ボランティア代表　前田　真

～そして、来年新たな試みの礎となるように…～

今年から体制が変わった中央会一般ボランティアの参加。各責任者は副会長の中から選任との実行委員会の決定に則して岩田直前から命を受けたのは春間近な四役会の時であった。短い紙面で表現する筆力も無いので細かい経過や来年への課題は今年度に引き継がれたトライアスロン実行委員会で報告させていただく。が、唯一点当日までの参加者動向の把握や全員参加の意識の徹底は、旧年度の副会長と委員長若しくは委員長指名の募集責任者に八面六臂の活躍をいただいた。会の最も核となる集合体は委員会である、との信念からであった。私の「岩田年度の委員会の終了は7月21日である。気を抜くな!」との檄を各委員長は各々のスタイルで忠実に表現していただいた。結果は委員長各位の胸にしるされているとおりである。お疲れ様でした。ことにAS責任者として慣れぬ責務を快諾していただいた萬田、浜田、武海、伊藤の四会員に感謝申し上げる、そして全ての参加者の心意気で来年への確かな布石は築かれたと思う。そしてどうもありがとう。感謝の気持ちをこめて五省を送る。

一．至誠ニ悖ルナカリシカ　二．言動ニ恥ズルナカリシカ　三．気力ニ欠クルナカリシカ　四．努力ニ恨ラミナカリシカ　五．不精ニ亘ルナカリシカ